

# 大田県議の質問(続き)

## 補聴器購入の助成を

大田県議は、難聴が進行すると、人と会うことや外出することが億劫になり、認知機能が低下するといわれていると指摘。その上で「補聴器は非常に高額で、誰もが容易に購入できるものではない。県内では益田市が2万5000円を補助するのみとなっており、県としても補聴器が購入しやすくなるよう、市町村への財政支援を含め、積極的に取り組むべきだ」と求めました。

安食治外健康福祉部長は、現在、国において補聴器導入による認知症予防の効果について調査が進められているとし、「国の財政措置を含めて検討してもらい必要がある。国の調査結果と、これに伴う施策反映を注視していく」と答えました。

大田氏は、日本は世界的に補聴器の装着率が低く、満足度も低いことを紹介し、「難聴早期の補聴器の装着が効果的と言われている。全県で実施し

ても益田市の例からも予算はさほどでもない」と強調。「子育て支援の充実

## 丸山知事が大田県議質問で陳謝

尾村県議質問で

## 国指針誤解し批判答弁

6月21日に尾村利成県議が一般質問で取り上げた保育所での虐待について、丸山達也知事は「虐待はいかなる場所でもあってはならない」とした上で、個別判断の必要性を指摘し「縦割り行政の典型である政府のガイドラインだけで物事をぶつ切ってよいのかどうか、我々自治体は考えないといけない」と答え、

とともに高齢者の暮らし安心のための予算も充実すべきだ」と求めました。重視すべきではないという趣旨の答弁をしまし。これに対し尾村県議は再質問で「行政をやる人が法律とか保育指針、国のガイドラインを真摯に見ていかないと虐待はなくなり、子どもたちを安心して預けることなどできない」と厳しく反論、論破していました。大田県議は6月27日の一問一答質問で、丸山

## 若者たちの力に希望見出す

かつてない異常な国会を終え、多くの方から「凄い論戦。入管法問題の質問や討論に涙がで

た」と激励頂きます。確かに全身全霊で臨んだ論戦でしたが、そのエネルギーは大半を若者たちから注がれたものでした。

ウイシユマさん事件で廃案になったのに強行をはかる岸田政権に、真っ先に国会要請活動をはじめたのは学生たちでした。人権や国際法を学びつつ、入管に面会

に通い、支援を続けてきた非正規滞在者、被収容者やその家族が、この法案でどんな残酷な仕打ちを受けるか。「そんな差別と排斥の社会に生きたくない」と訴える真剣な姿にどれだけ励ま



参院議員(弁護士)

にひ そうへい  
西南の風



あいさつする仁比氏(5月12日、国会正門前)

されたか分かりません。なりたての若手弁護士たちが「私たちの大問題。日本社会で最も脆弱な非正規外国人の人権を守れず、全ての人の人権が守れるはずがない」と先頭に立ち、在日コリアンの若者たちも声をあげました。衆議院の採決強行に怒り、杉並や国会正門前、有楽町や渋谷から日本

中にひろがったデモやスタンディング。「平均年齢30歳くらいかも」という私に「もう少し上かも。でも僕より若いですよね」と山添拓参議院議員が応じる場面もありました。私が「数で決めてはならないことがある」と反対討論するなか、法務委員会で行われた乱暴な強行採決を傍聴していた2人の大学生が、絶句した姿は忘れられませんが、

こんな人権後進国でいいはずがない——国の根本が問われている今、若者たちの力に希望を見出す思いがします。(7月5日記)

## 地域の話題

### 大田 コロナ受入体制 宮協議員が質問

宮協議員―市立病院での新型コロナウイルス感染者の受け入れ体制、内容および国からの支援内容について伺う。

市立病院事務部長―令和2年4月から島根県の要請を受け、16床を専用病床として確保している。確保病床の使用状況は、県の入院調整本部より入院が必要な患者のうち、軽症や中等症の患者が対象で、昨年8月には最大12床の使用があった。国からの支援内容は、新型コロナウイルス患者を受け入れる場合、診療報酬請求等の加算措置、確保病床のうち空床となっ



知事のこの発言を取り上げ、「国が示すガイドラインを軽視するものと言わざるを得ない。国が示す各種指針は、不十分さはあるにしても、社会情勢や全国の事例等をもとに策定されている」と指摘。そして、保育所等での虐

待防止に関するガイドラインは、保育所で働く人保護者、何より子どもたちが安心して生活できる環境を整える上できわめて重要なものだ」と述べ、丸山知事に対し、「発言の訂正又は修正」を求めました。

国が5月に示したガイドラインには「個別の行為が虐待かどうかは、子どもの状況など総合的に判断する必要がある」となると記載されているが、丸山知事は補足部分を見落としていたとして「ガイドラインの詳細を確認せず、誤った評価をした」と陳謝しました。

## アノコノ

### 大田 水道料減免延長を 安達議員が要望

安達議員―物価高騰が続く中、政府の2023年度予算を見ると、物価高騰対策が不十分である。水道料金の減免は市民から大変好評である。水道料金の基本料金の減免は、4月までの4か月間であるが、これを延長する考えはないか。

答弁―水道料金の減免については、地方創生臨時交付金を活用して行っている。減免の延長については現在のところ、可能な財源がないため考えていない。経営基盤の強化、安定した経営に努めていきたい。(「まずだ民報」より)

## 党島根県委員会Facebook、Twitterのフォローを

日本共産党島根県委員会は、Facebook ページとTwitter を開設しています。島根県委員会からのお知らせや県内の地方議員の活動などをアップしています。スマホで下記のQRコードを読み込んで、ぜひフォローしてください。

島根県委員会 Facebook ページ →



島根県委員会 Twitter →

